

綱元講習会 開催

講師の大阪技術部 山名さんにお話を伺いました
講習会を開催することになった経緯



以前から劇場の仕事の進め方や綱元操作の不慣れ（仕込み～撤去はもちろん、演出への参加として重要な本番の操作）、苦手意識が我が社のウイークポイントでありました。これは各個人の能力の欠如というより、単に場慣れや経験値の問題であり、その入り口、切っ掛け作りが会社として必要だと感じたからです。実際、仕事量としてもツアーはアリーナ以上にホール現場の方が多く、ホール設備も電動ボタンが増えていますが、全国のホール全てが電動ボタンに移り変わるのはまだまだ先の事でしょう。技術部員にとっては継承していかなくてはならない技術です。

講義をする上でどこに重きを置いて講習に臨んだか

6名の新人に対しては、ボタンの仕組みや危険性はもちろん、実際に扱ってみてボタンが走る感覚、バミリに合わせてブレーキを掛けていく方法など、そして何より本番で綱元をコントロールする緊張感や醍醐味を肌で感じてもらえるような講習を。技術部社員には、重量物の仕込み～撤去方法や、荷変わりする状況の仕切り方や対処法などより安全面に重きを置いた講習に努めました。

講義を終えての感想や今後の展望

情報収集するに、同業他社さんや照明会社、舞台監督会社さんもその必要性を感じて自社内で綱元講習を行っているそうです。われわれ大道具は劇場ではインシアチブを発揮し、全体のリーダーとなって仕事を進めて行くべきだと思います。そして、その為には綱元の技術は必要不可欠な技術です。今後も継続して、中堅以上の社員にはより深く、様々な状況を想定した講習を、若年社員には綱元に慣れることから、舞台を使ってパンチ、リノリュウム、地絣などの床物の敷き方や吊り物のワイヤーの決め方、割レールの仕込み方なども含めて講習していきたいです。

新入社員の木崎さん・倉増さん・松内さんにお話を伺いました

木崎 拓郎さん

バレエの現場ではあまり分からないまま作業していましたが、ボタン操作の実演と自分で触りながらの講習でとても勉強になりました。先輩方ともコミュニケーションをとれてよかったです。また、ボタン操作の危険性も体感する事が出来たので現場で携わる時は安全作業を心がけていきます。



倉増 純也さん

先日の綱元講習会では実際に綱場に入り、操作を体験しましたが、とても難しかったです。短い時間でしたが先輩方にたくさんの事を教えて頂いたので、とても勉強になりました。

松内 佐奈枝さん

現場で綱元を見る機会はあったのですが、実際に触った事はなかったので、この講習で綱元にさわって、知識として学ぶ事が出来たのですごく為になりました。またこういう講習があれば是非受講したいです。

参加して下さった皆様ありがとうございました！